

筑波山概要



筑波山は、茨城県を代表する風光明媚な観光地。昔から「西の富士、東の筑波」と称され、信仰を集める霊峰として栄えてきた。四季折々を彩る、景色、景観が楽しめる。

外観



筑波山梅林周辺の観光施設の充実、利便性の向上を目的として梅林駐車場入口に公衆トイレを新設。色彩計画や建材にも木材を多用するなど、国定公園の景観イメージを損なわないよう配慮されている。

女子トイレ



床の清掃性を考慮し、壁掛式大便器を採用。清掃方法は、通常は乾式清掃を実施しているが、登山者の利用が多いことから、泥汚れに対応して、湿式清掃もできるように、床タイルや排水口を採用。

筑波山全体図



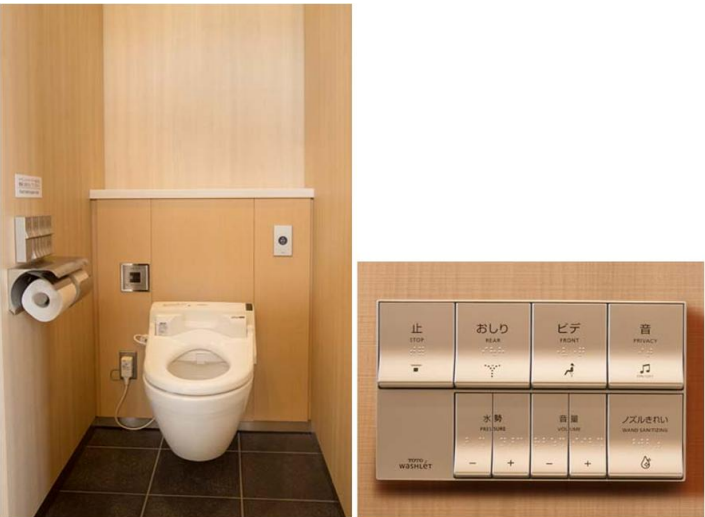
山頂付近までケーブルカー、ロープウェイや登山道が整備されている。新設された第一駐車場トイレが位置する梅林は中腹に位置し、筑波山神社及び登山道までの中継地点として、多くの利用者で賑わっている。

多機能トイレ



車いす使用者や小さなお子様連れなど、さまざまな利用者への配慮として、多機能トイレを設置。広さを感じさせる天井高、上部のルーバーから自然採光を行い、空間全体に明るく開放感を持たせている。

トイレブース



紙の削減や宗教信仰上、水洗い式文化圏の訪日外国人などに配慮し、全ブーストイレに温水洗浄便座を設置。リモコンはボタンを押すたびに発電する電源工事不要の「エコリモコン」を採用している。

洗面コーナー



洗面カウンターは、洗面ボウルとカウンターに継ぎ目がなく、清掃しやすいボウル一体型カウンターを設置。水栓は、非接触で水の止め忘れがない自動水栓を採用している。

ベンチ・サイン



トイレ前には、休憩スペースとして同行者が休めるベンチを設置。サインもわかりやすく、すっきりとデザインされている。

建築概要

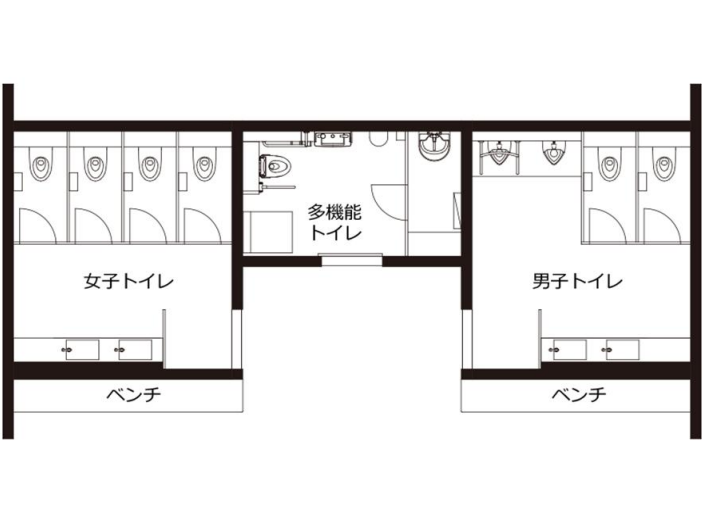
名 称	筑波山第1駐車場トイレ
所 在 地	茨城県つくば市沼田1698-1
施 主	つくば市
設 計	村田建築都市研究所 一級建築士事務所
施 工	株式会社 高田工務店
竣 工 年 月	2016年2月

小便器コーナー



節水型であり、尿石の付着やにおいの発生を抑制することができるジアテクト機能付き自動洗浄小便器を採用。足元には、尿の飛散によるにおいや汚れを軽減するハイドロセラ・フロアを設置している。

図面



公衆トイレ中央部に設けた入口から、内部への視線をさえぎりつつ、スムーズにトイレに入り出すことのできるレイアウトとなっている。

水まわりの特長

<新設の経緯>

日本百名山、日本百景のひとつである筑波山は、全域が水郷筑波国定公園に指定されている、茨城県を代表する観光地である。筑波山を御神体とした筑波山神社への参拝客や登山者など、年に約170万人（平成27年度）が来訪。中腹にある市営の梅林は、筑波山神社や登山道までの中継地点として、多くの利用者で賑わうことから、このたび、梅林駐車場入口に公衆トイレが新設された。筑波山梅林周辺の観光施設の充実を図り、利用者の利便性の向上を目的としたトイレ整備には、環境省の自然環境整備交付金が活用された。

<トイレの特長>

新設したトイレは、筑波山の景観に馴染む色彩計画のもと、建材にも木材を多用して、国定公園の景観イメージにふさわしく配慮されている。また、設備も、使いやすさやメンテナンスしやすさ、節水・節電タイプなどを考慮し、設計計画された。「和式便器の使い方がわからずに子どもが泣いていた」という声や立ち座りが難しい高齢者への配慮、便器まわりへの尿の飛び散りが少ない点を評価して、全洋式便器とした。また、快適性の向上はもとより、宗教信仰上トイレトーパーを使用しない水洗い式文化圏の訪日外国人などへの配慮もあり、温水洗浄便座を採用している。